

## <経済学部>

経済学というのは、一言でいうと主に「お金の流れ」を研究する学問です。その中に、社会全体もしくは世界全体のお金の流れについて研究していく「マクロ経済学」、ある会社、個人において、どのような行動をとれば利潤ができるかを考えていく「ミクロ経済学」があります。これら2つが基礎となり、国や地方自治体による経済活動を学ぶ公共経済学、貿易などの経済の動きを学ぶ国際経済学、お金の動きやそれに伴う経済現象を学ぶ金融論といったように、各分野によって応用されていきます。また、経済学は、数学(微分等)を用いることもあります。ただ、大学によっては高校数学の復習ができる講義もありますので、安心してください。就職先は金融機関、保険会社、証券会社などに多くの学生が就職します。基本的には就職の幅が広い学部であるといえます。また、公認会計士、税理士、証券アナリスト、国税専門官などの資格を取得する学生もいます。

## <シグマ講師による学部紹介 吹田本校 山尾先生>

- 1.講師の所属学部・学科:経済学部 経済学科
- 2.専攻:経済学
- 3.専攻についての詳細:

経済学は主に2種類に分けることができます。ひとつはマクロ経済学で、もうひとつはミクロ経済学です。これらは、分析の目的と手法によって分けられています。マクロ経済学は経済全体の動向を説明することを目的とされています。ミクロ経済学は、消費者や企業などの個々の経済主体行動を分析対象としてそれを説明することを目的とされています。簡単に言うと、マクロ経済学は大きい視点(国レベルの視点)でものごとをとらえるのに対して、ミクロ経済学は小さい視点(家計や企業レベルの視点)でものごとをとらえます。

次に、ミクロ経済学の中で学ぶ「市場価格の決まり方」について基本的な内容を述べたいと思います。まず市場とは何か。それは、消費者と生産者(企業)が取引する場、言い換えると物売り買いする場のことです。市場の価格は、主に需要(消費者がどれだけモノを買うか)と供給(生産者がどれだけモノを売るか)によって決まります。少し難しくなってきたかも知れないので、みかんでその例を考えてみましょう。例えば、台風がみかんの産地である愛媛を襲って、みかんが例年より収穫できませんでした。そうすると、供給が少なくなるのでみかんの価格は上がります。反対に、天気の良い日が続いたのでみかんが豊作でした。そうすると、供給が多くなるのでみかんの価格が下がります。また、需要の観点からみると、もし全国的にみかんブームが起こり、需要が増えるとみかんの価格は上がります。このようにして、いろいろな要因で価格が上がったり下がったりします。最終的に、需要と供給が一致したところで値段が決まります。

上に述べたことは、ミクロ経済学のほんの一部です。みなさんも中学校時代に公民で経済について一度学習したことがあると思います。もちろん、大学の講義においてはさらに細かく分析を行います。また経済の歴史について学ぶ経済史や、実際のデータを統計的に集計して経済理論の検証をおこなう統計学等、様々な講義もあります。

経済学部で学習する内容は、就職して実際に働くようになってからも役に立つことばかりです。もし少しでも興味がある方は、経済学部を志望されてはいかがでしょうか。

#### 4.卒業後の進路

経済学部では、どの大学でも卒業後に金融・保険業に就職する人が2~3割を占めます。その次に多い就職先は、メーカーや商社といった業種です。割と就職に関しては幅が広い学部であるといえます。経済という学部のため、民間企業に興味のある人が多く、公務員になる人は、他学部に比べて少ないように思われます。

#### 5.取得可能な資格

経済学部を必ず卒業しないと取れない資格は特にありません。ただし、試験に合格することで公認会計士・税理士・国税専門官・中小企業診断士などの資格が取れます。これらの資格に合格するには、大学の授業を受けるだけでなくそれぞれの資格に対する勉強が必要になります。最近経済学部では、情報系の科目(コンピュータについて学ぶ科目)に力を入れている大学が増えています。そのため初級システムアドミニストレータ(将来的に廃止される可能性あり)や基本情報技術者といった資格をとる人もいます。

また教職課程をとることで、中学校や高校の社会の教員免許の資格をとれる大学もあります。